

田谷選手は二十四才、とてもはれやかなすがすがしい表情でした。

アジアで初めて開かれた東京オリンピックは、近代オリンピック史上、第十八回目の大会です。昭和十五年に東京で開かれる予定だった第十二回大会は、第二次世界大戦のため中止となっていました。

田谷選手は、その戦争中の昭和十五年五月、須賀川市大町の農家に七人兄弟の末子として生まれました。お父さんは、若いころ軍隊生活を経験したこともあり、子どもたちの教育には、いつも深い考えをもっていました。

あのマラソンのとき、人々は「田谷選手は、どうしてうしろをふり向かなかつたのだらう。うしろを見ていれば……。」と疑問に思っていました。しかし、田谷選手は、これまでのどんなレースでも、うしろを見ることはしなかつたのです。陸上の選手になつてからずっと、お父さんの教えを守つて走つていたからです。高校一年生のある日、陸上部に入ろうと思つてお父さんに相談すると「走るからには前だけをみて走れ、絶対ぜったいにうしろを見るようなことはするな。うしろを